

m i l b o n

株式会社ミルボン

2026年12月期第1四半期決算説明会

2026年5月15日

イベント概要

[企業名]	株式会社ミルボン
[企業 ID]	4919
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2026 年 12 月期第 1 四半期決算説明会
[決算期]	2026 年度 第 1 四半期
[日程]	2026 年 5 月 15 日
[開催場所]	インターネット配信
[登壇者]	1 名 執行役員 コーポレートコミュニケーション部長・財務担当 兵庫 真一郎（以下、兵庫）

登壇

兵庫：皆さん、こんにちは。コーポレートコミュニケーション・財務担当の執行役員の兵庫と申します。本日はご多忙の中、本決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

それでは、時間も限られていますので、資料の説明に入りたいと思います。

2026年度第1四半期決算のポイント

FY26 Q1実績
地域別 売上高
営業利益
FY26 通期見通し

【前期比】売上高は+11.0%の増収、営業利益は+75.4%増益を達成
【計画比】売上高は+3.7%の増収、営業利益は+62.4%となり、会社計画を上回る内容

- 国内の美容室市場の伸び悩みは継続。厳しい市場環境の中で、当社はヘアケア用剤が底堅く推移、染毛剤も前期比で、ほぼ横ばい(△0.5%)まで回復、国内売上高は概ね計画線で推移
- 海外は円ベースで+31.1%、現地通貨ベースで+25.1%の増収と、総じて好調に推移。特に米国が前期比+72.9%(円ベース)と高い伸びを示した
- 売上高の増加に伴う粗利の増加、販管費の未消化(期ずれ)などもあったことで、営業利益は前期比・計画比共に上回る結果となった。営業利益率は10.1%(昨年度Q1実績:6.4%)と改善した

不透明な要因は残るが、足元の業績が好調であることを踏まえ、現時点では通期計画を据え置く

第1クォーターの決算のポイントになります。

前期比で売上高11.0%の増収、営業利益は75.4%の増益を達成いたしました。対計画では売上高は3.7%の増収、営業利益に対してもプラスの62.4%で、会社計画を上回る良い内容となっております。

地域別の売上高です。国内の美容室市場は伸び悩みが継続していますが、当社のヘアケア用剤が底堅く推移。染毛剤も前期比でほぼ横ばいまで回復しております。対計画で申し上げますと、国内売上高はほぼ計画線での着地となりました。

海外は円ベースで31.1%の増収、現地通貨ベースで25.1%の増収と、高い伸びを示しております。総じて好調に推移していると考えております。特に、米国が前期比72.9%増収と高い伸びを示しております。この理由については、後ほどご説明させていただきます。

営業利益につきましては、売上高の増加に伴う粗利益の増加、販管費の未消化等もございましたが、営業利益は前期比・計画比ともに上回る計画と結果となりました。

なお、営業利益率は10.1%。昨年第1クォーターの6.4%から大幅に改善しております。

通期の見通しにつきましては、中東情勢等不透明な要因は残りますが、足元の業績が好調であることも踏まえ、現時点では据え置きとさせていただきます。

連結損益計算書

売上高は、円安効果もあるが、海外が好調に推移したことにより、営業利益は、増収による粗利益増加に加え、販管費の期ずれもあり、会社計画を大幅過達した

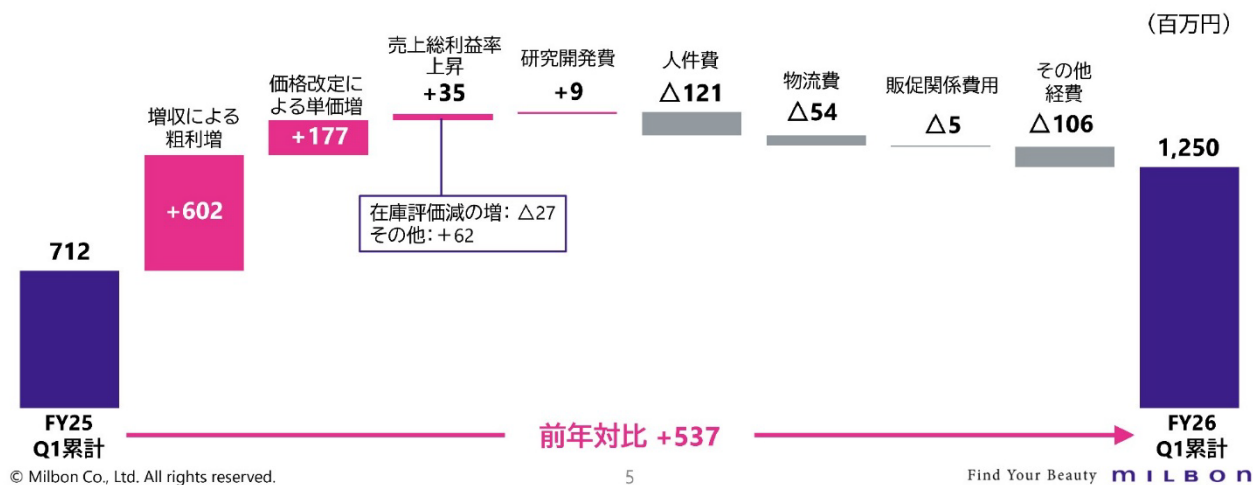
(単位:百万円)	FY2025	FY2026		増減額	増減率 (%)	FY2026 Q1計画	計画比 (%)
	Q1累計	Q1	累計				
売上高	11,180	12,415	12,415	1,234	+11.0%	11,977	103.7%
売上総利益	7,057	7,872	7,872	814	+11.5%	7,647	102.9%
売上総利益率	63.1%	63.4%	63.4%	—	—	63.8%	—
販管費	6,345	6,622	6,622	276	+4.4%	6,877	96.3%
営業利益	712	1,250	1,250	537	+75.4%	770	162.4%
営業利益率	6.4%	10.1%	10.1%	—	—	6.4%	—
営業外収支	△87	86	86	174	—	△41	—
経常利益	625	1,337	1,337	711	+113.7%	729	183.4%
特別利益(損失)	△0	△0	△0	0	—	△5	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	462	1,015	1,015	553	+119.6%	530	191.6%

次に、連結損益計算書の内容となります。先ほど申し上げました通り、売上高は円安効果もございましたが、海外が好調に推移したこともございまして、営業利益については増収による粗利益増加に加え、販管費に期ずれもございまして、会社計画を大幅に達成いたしました。

右から2番目の列に、2026年度の第1クォーターの計画を載せてあります。1点見ていただきたいところが、経常利益のところですが、こちらの伸び率が、前年同期比でプラスの113.7%と高い伸びを示しております。この理由といたしましては、営業外収支におきまして、前年の為替差損に対しまして、今期は為替差益が出ていることが主因でございます。

連結営業利益 前年同期比増減要因

増収効果に加え、売上総利益率が改善。物流費の増加は売上高増加に伴うもの、人件費の増加は人員増、ベースアップなどが主因

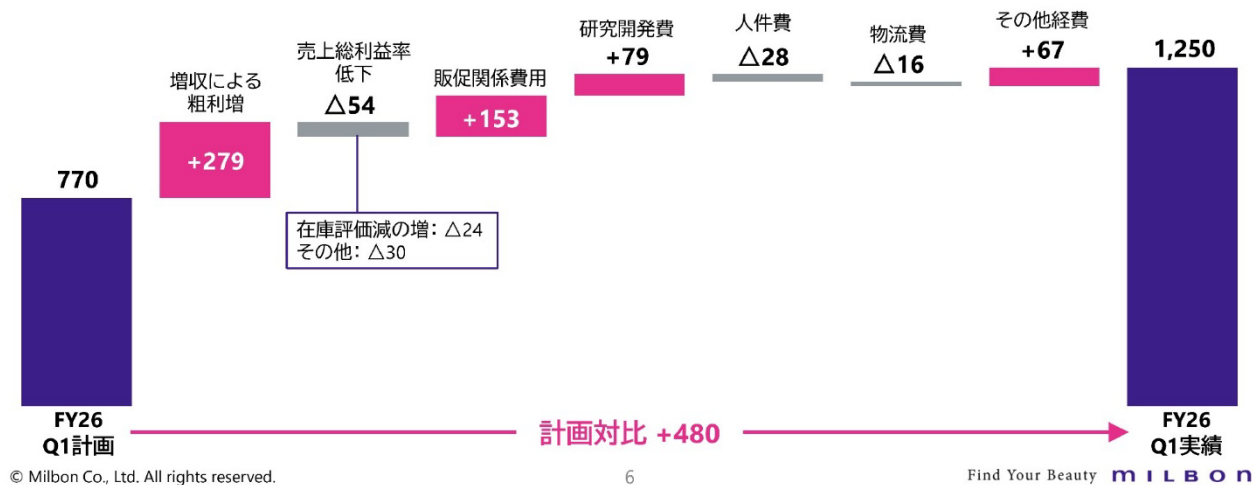


5 ページでは、連結営業利益の前年同期比の増減要因をウォーターフォールチャートで示しております。お示しの通り、増収による粗利増、価格改定による単価増、こういった要因が利益を押し上げました。

一方で、人員増やベースアップなどの減益要因や、人件費の増加による減益要因、またその他の費用の減益要因等を吸収いたしまして、最終的には前年同期比に対して5億3,700万円の増益となっております。

連結営業利益 対計画増減要因

販促関係費用、研究開発費は期ずれ要因が含まれるが、対計画では増益要因となった
(百万円)



6 ページが、連結営業利益の対計画の増減要因でございます。こちらにつきましては、先ほどから申し上げている通り、海外を中心に売上高が伸びているということにございまして、増収による粗利益の増加、販促関連費用の期ずれ、研究開発費の期ずれ等がございまして。

一方で、在庫評価減が増加して、2,400 万円出ていますが、これは化粧品関連のものが出ております。こちらは第 1 クォーターに計上を予定しておりませんでした。こちらが出てきたところが、マイナス要因となっているという状況でございます。

こうした期ずれの要因も含めて、最終的には対計画で 4 億 8,000 万円のプラスの着地となっております。

地域別業績 国内・海外の売上高・営業利益

(単位:百万円)		FY2025 Q1累計	FY2026 Q1累計	増減額	増減率 (%)	実質増減率 ^{※1} (%)	FY2026 計画 Q1累計	FY2025Q1 為替レート	FY2026Q1 為替レート
日本	売上高	8,165	8,462	296	3.6%	3.6%	8,446		
	営業利益	566	660	93	16.5%	—	—	—	—
	利益率(%)	6.9%	7.8%	—	—	—	—	—	—
海外	売上高	3,014	3,952	937	31.1%	25.1%	3,530		
	営業利益	145	589	443	304.2%	—	—	—	—
	利益率(%)	4.8%	14.9%	—	—	—	—	—	—
韓国	売上高	1,189	1,428	239	20.1%	16.8%	1,436	1KRW=	1KRW=
	営業利益 ^{※2}	404	518	113	28.1%	—	—	0.1045円	0.1074円
	利益率(%)	34.0%	36.3%	—	—	—	—		
中国	売上高	637	793	155	24.4%	15.7%	689	1RMB=	1RMB=
	営業利益	67	119	51	75.5%	—	—	20.98円	22.56円
	利益率(%)	10.7%	15.0%	—	—	—	—		
米国	売上高	495	856	361	72.9%	67.1%	552	1USD=	1USD=
	営業利益	△20	174	195	—	—	—	151.21円	156.45円
	利益率(%)	△4.2%	20.3%	—	—	—	—		
EU	売上高	110	175	65	58.7%	37.8%	162	1EUR=	1EUR=
	営業利益	△46	△31	14	—	—	—	159.35円	183.53円
	利益率(%)	△41.5%	△18.2%	—	—	—	—		
その他 ^{※3}	売上高	581	697	115	19.9%	14.1%	689		
	営業利益	52	128	77	148.9%	—	—	—	—
	利益率(%)	9.0%	18.4%	—	—	—	—	—	—
	(配賦コスト)	△312	△318	△6	—	—	—	—	—

※1 現地通貨ベースでの実質増減率 ※2 今期より、海外の国別営業利益は「全社共通配賦前」の利益を記載(全社配賦コストは最下段に記載)

※3 台湾、香港、タイ、マレーシア、シンガポール、ベトナム、インドネシア、フィリピン、トルコ、UAE

© Milbon Co., Ltd. All rights reserved.

Find Your Beauty **MILBON**

8 ページが、地域別業績、国内・海外の売上高・営業利益の水準を表しております。

この表につきまして、今年度から変更したところが2点ございますので、ご説明させていただきます。

まず1点目は、海外のセグメントの中にEUを入れたというところがございます。重点領域でありますEUについて、このクォーターからの実際の売上高・営業利益の水準を開示させていただきます。

また2点目は配賦コスト。その他の一番下のところがございますが、全社の共通配賦費用を外出しいたしました。今までは、売上高の出荷ベースに応じて各エリアの方に割り振った後の数字で開示していたのですが、そういたしますと、なかなか営業利益の伸びが分かりづらいと判断いたしました。その結果、配賦コストを外出しすることによって、より皆様に海外での経営状況を把握していただけるのではないかと考えております。

こちらを見ていただきますと、日本での売上高が3.6%増収、営業利益が16.5%の増益。海外全体でいきますと、売上高が31.1%の増収に対して、営業利益が304.2%増益ということで、海外の営業利益の水準がかなり上がっているということを見てとれるかと思っています。

去年の第1クォーターの水準におきましても、新しい基準での開示になっております。この第1クォーターでの計画については、23ページに詳細を、去年の数字も含めて入れておりますので、もしお時間があればご覧いただければと思います。

地域別業績 日本国内

市場環境は大きく変化していないが、ヘアケア用剤は前期比+5.5%と底堅く推移、染毛剤は△0.5%もマイナス幅は縮小。売上高・営業利益共にほぼ計画通りの推移

カテゴリ別売上高 昨対成長率※

ヘアケア用剤は新製品スワエが好調に推移したことに加え、様々な施策の効果もあり堅調継続。染毛剤はグレーカラーが引き続き堅調、ファッションカラーのマイナスは改善傾向

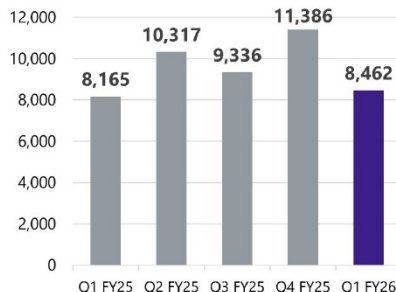
FY2026		
売上高 成長率	1Q	累計
ヘアケア用剤	+5.5%	+5.5%
染毛剤	△0.5%	△0.5%
化粧品	+3.8%	+3.8%
構成比	1Q	累計
ヘアケア用剤	67.7%	67.7%
染毛剤	28.1%	28.1%
化粧品	2.0%	2.0%

※出荷額ベースによる数値

© Milbon Co., Ltd. All rights reserved.

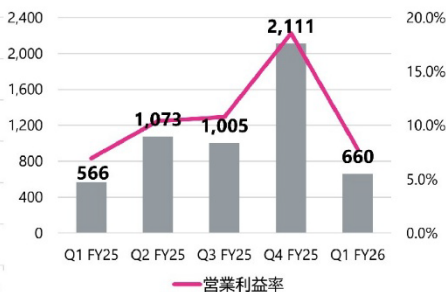
四半期 売上高(百万円)

1Qはもともと季節性で売上高が小さい四半期。ヘアケア用剤が堅調に推移していることもあり、前期比では+3.6%と順調な推移



四半期 営業利益(百万円)

売上高の増加に伴う増益。ほぼ計画通りの着地



Find Your Beauty MILBON

日本国内です。こちらについては、市場環境については大きく変化しておりません。ヘアケア用剤については、その中でプラスの5.5%と堅調に推移。染毛剤につきましても、マイナスではありますが、マイナス幅は0.5%と小さくなっています。売上高、営業利益ともにほぼ計画通りの推移となっています。

ヘアケア用剤につきましては、オー ज्याアが EC (milbon;iD) を含めて堅調に推移いたしました。また、新製品でありますスワエも好調に推移しております。

地域別業績 韓国

昨年第1四半期の政情不安の影響の反動もあり、売上高、営業利益ともに高い伸び率となった。計画比で売上高は若干未達だが、営業利益は計画を上回る着地

カテゴリ別売上高 昨対成長率※

染毛剤、ヘアケア用剤、パーマ用剤のすべてが2桁増収を示した。市場環境に大きな変動はないが、サロン経営者はコスト上昇への警戒感を強めている

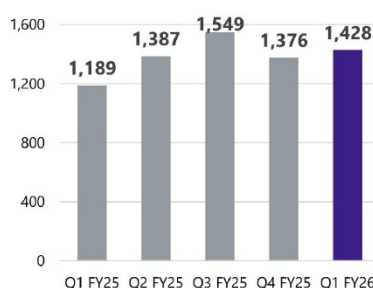
FY2026		
売上高 成長率	1Q	累計
ヘアケア用剤	+22.7%	+22.7%
染毛剤	+16.6%	+16.6%
パーマ用剤	+17.0%	+17.0%
構成比	1Q	累計
ヘアケア用剤	25.5%	25.5%
染毛剤	68.4%	68.4%
パーマ用剤	5.5%	5.5%

※現地通貨ベースによる数値

© Milbon Co., Ltd. All rights reserved.

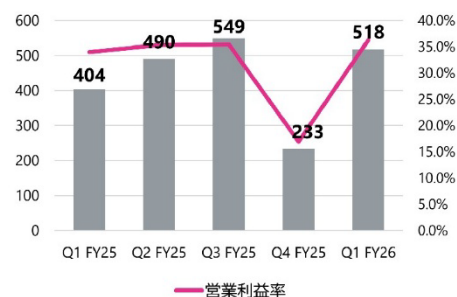
四半期 売上高(百万円)

1-2月は売上構成比が高い染毛剤が低調に推移したが、営業活動の強化もあり3月は回復。前期比では堅調な結果だが、対計画では小幅未達



四半期 営業利益(百万円)

売上高が小幅計画未達となったが、販管費のコントロールが奏功して、営業利益は対計画を上回る着地



※ 今期より、海外の国別営業利益は「全社共通配賦前」の利益を記載

Find Your Beauty MILBON

韓国でございます。韓国につきましては、昨年1月に政情不安などの影響もあり、デモ等でサロンに出かけられない状況がございました。その反動もございまして、今年度の第1クォーターの伸びは高い伸びを示しております。

対計画につきましては、1月、2月が主力のカラー剤が低調に推移したものの、3月は営業強化により、盛り返しているという状況でございます。売上高は若干下振れておりますが、営業利益についてはコストコントロールもございまして、計画を上回る着地となっております。

地域別業績 中国

市場環境は厳しい状況が続く中、春節時期のずれの影響もあったものの、売上高・営業利益はいずれも高い伸び率で計画を上回る着地となった

カテゴリ別売上高 昨対成長率※

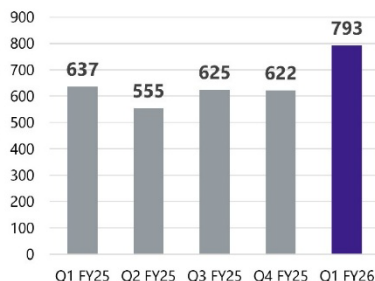
美容室における消費の変化に対し、政策や提案を継続的に実施、これが評価されている。グローバルミルボンのサロントリートメントも堅調

FY2026		
売上高 成長率	1Q	累計
ヘアケア用剤	+13.2%	+13.2%
染毛剤	+19.5%	+19.5%
構成比	1Q	累計
ヘアケア用剤	56.6%	56.6%
染毛剤	37.5%	37.5%

※現地通貨ベースによる数値

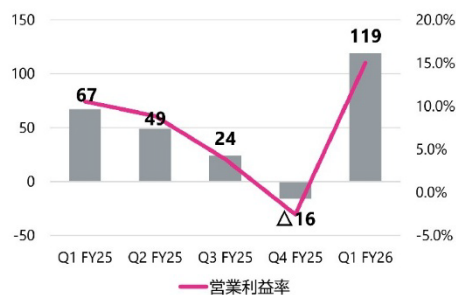
四半期 売上高(百万円)

市場環境の厳しさは継続する中、春節時期のずれ(昨年12-1月→今年1-2月)の要因があるが、高い伸び率を示した



四半期 営業利益(百万円)

ヘアケア用剤、染毛剤とも堅調な推移により、売上高が伸び、利益は大きく回復した



※ 今期より、海外の国別営業利益は「全社共通配賦前」の利益を記載
Find Your Beauty MILBON

© Milbon Co., Ltd. All rights reserved.

11

中国でございます。中国につきましてはこちらに記載の通り、市場環境というのは非常に厳しい状況が続いておりますが、この中で、ミルボン中国は着実に成長しております。今年度の第1クォーターの要因としまして、春節の時期のずれの影響もございましたが、実態ベースでは売上・利益とも会社計画を上回るペースで進んでいるとご理解いただければと思います。

地域別業績 米国

ヘアケア用剤・染毛剤ともに大幅増収。サロン専売領域における競合ブランドの代理店変更による市場変化も寄与し、当社販売は大きく伸長

カテゴリ別売上高 昨対成長率※

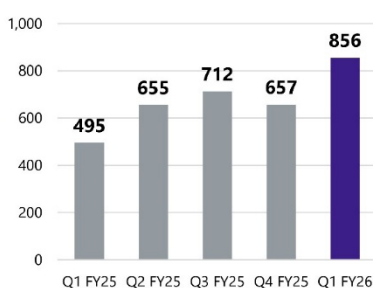
ヘアケア用剤、染毛剤ともに大幅な増収。競合ブランドの代理店変更による市場変化も寄与した上、構成比が高いヘアケア用剤は、代理店との協働体制の深化もあり、引き続き好調を維持

FY2026		
売上高 成長率	1Q	累計
ヘアケア用剤	+68.7%	+68.7%
染毛剤	+69.2%	+69.2%
構成比	1Q	累計
ヘアケア用剤	87.6%	87.6%
染毛剤	8.4%	8.4%

※現地通貨ベースによる数値

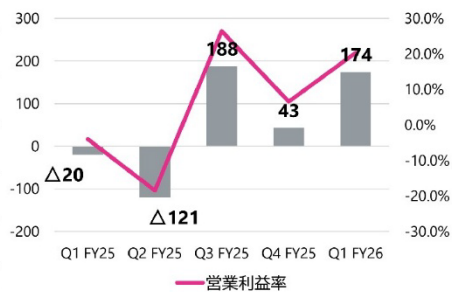
四半期 売上高(百万円)

美容室市場でも消費者マインドへの影響は見られるが、当社はヘアケア用剤、染毛剤ともに好調継続



四半期 営業利益(百万円)

売上高の増加による粗利増により、大きく収益性が改善しつつある



※ 今期より、海外の国別営業利益は「全社共通配賦前」の利益を記載
Find Your Beauty MILBON

© Milbon Co., Ltd. All rights reserved.

12

米国です。ヘアケア用剤・染毛剤ともに、数字を見ていただければお分かりの通り、大幅に増収しております。この理由といたしまして、もちろんファンダメンタルが良いということがございますが、加えて、サロン専売領域におけます競合ブランドの代理店変更による市場変化も寄与しているということで、当社の販売は大きく伸長しています。

もう少し具体的に申しますと、サロンの製品専売領域の競合ブランドが、特定の卸売会社と提携。その結果、独立系代理店との取引を停止するということがございました。そのため、独立系代理店の帳合に変更が起り、独立系代理店でミルボンのシェアが上がったということが大幅増収の一因となっています。

ですので、第2クォーターもこの高い伸びを持続するというのは困難かと思いますが、引き続き、売上のベースが上がったとご理解いただければと思っております。営業利益についても、しっかり会社計画を上回った水準で推移しております。

地域別業績 EU

新製品投入と新規サロン獲得、ドイツ直販の伸長により売上高は高成長。
一方、先行投資により営業赤字が継続

カテゴリ別売上高 昨対成長率※

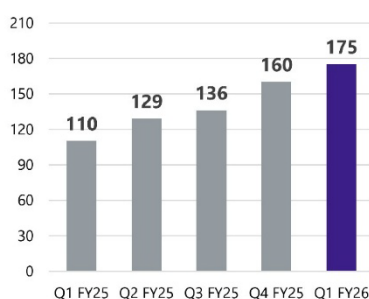
ヘアケア用剤は新製品による市場拡大、展示会出展による新規サロン獲得などで好調。新たに契約したカラーアンバサダーの効果も出てきている

FY2026		
売上高 成長率	1Q	累計
ヘアケア用剤	+40.7%	+40.7%
染毛剤	+34.7%	+34.7%
構成比	1Q	累計
ヘアケア用剤	77.8%	77.8%
染毛剤	18.9%	18.9%

※現地通貨ベースによる数値
© Milbon Co., Ltd. All rights reserved.

四半期 売上高(百万円)

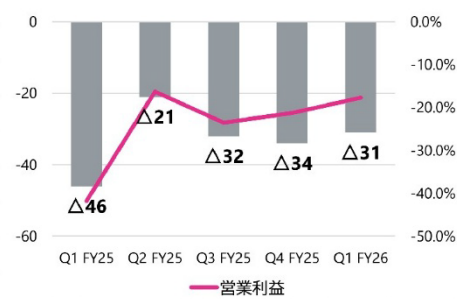
コミッションセールスの増員、顧客基盤の拡大が進み、売上成長が継続している



13

四半期 営業利益(百万円)

売上高は堅調に推移している一方で、成長投資(FP増員・管理体制強化等)を継続しており、営業赤字が継続している



※ 今期より、海外の国別営業利益は「全社共通配賦前」の利益を記載
Find Your Beauty MILBON

EUです。新製品投入と新規サロン獲得、ドイツ直販の伸長により、売上高は非常に高い伸びを示しております。ただ、利益につきましては、先行投資により営業赤字が継続しているという段階でございます。

EUにおきましては、現時点ではドイツ、ノルウェー、ギリシャなどで事業展開をしております。ただ、まだ初期の段階でございます。まずはヘアケアで市場参入を図り、その後、染毛剤への展開を考えております。新製品など市場拡大、展示会出展などによる新規サロン獲得で、好調に推移していると考えております。

トピックス①: 中東情勢の緊迫化による当社業績への影響について

中東情勢の影響により、資材・原材料調達やコスト上昇の不確実性が継続している。
一部の商品において、一時的な供給不足の可能性や販売開始時期の見直しが生じている

事業活動への影響および対応

- ・石油由来原料は主にアジア域内で製造しているが、調達・物流の両面で影響を受ける可能性がある
- ・今後、一部製品において、供給が不安定となる可能性や、原材料および物流コストが上昇する可能性がある
- ・グローバルSCMの活用、在庫管理の強化により、調達・物流の両面での対応を継続していく

製品供給の現状について(当社が把握している内容)

- ・エアゾール製品の一部部材において、代替困難であり、調達面での不安定要因はあるものの、全体としては代替原料の活用等により供給体制は概ね維持されており、現時点で長期的な供給停止リスクは小さいと認識している

業績への影響および今後の見通し

- ・通期業績への影響は精査するが、現時点では、下期に資材・原材料価格上昇によるコスト増加が見込まれる
- ・新カラー剤(プレトワ)は、安定供給体制の確立状況を踏まえ、発売時期を慎重に判断する
- ・中東情勢の影響を踏まえ、原価・販管費両面で適切なコストコントロールを実施していく
- ・引き続き地政学的リスクには注視しつつ、当社の業績等に重要な影響を及ぼす場合には、速やかに開示する

ここから、今期のこのクォーターでのトピックスをご説明させていただきたいと思います。皆さんも非常にご関心がある中東情勢の緊迫化による当社業績の影響についてになります。

中東情勢の影響により、資材・原材料調達やコスト上昇の不確実性が継続しております。一部商品におきまして、一時的な供給不足の可能性、販売開始の時期の見直しが生じているというのが現状でございます。

当社のグローバル生産体制は、三重県にあります「ゆめが丘工場」と、タイおよび中国に展開しております。製造にあたっては、石油由来の原材料や資材を使用しているため、中東情勢の影響を受ける可能性がございます。特に、調達および物流の面で影響が生じる可能性がございます。

こうした状況に対しまして、当社ではグローバルサプライチェーンマネジメントを活用し、日本に加えて、中国、タイの取引先からの調達を行うなど、ソースの複数化を進めており、安定供給体制の確保に努めております。

製品供給につきましては、現時点では大きな影響は顕在化しておりません。一部のエアゾール製品においては代替困難な部材も存在いたしますが、代替調達や代替原料の活用により、供給体制は概ね維持されております。そのため、長期的な供給停止リスクは現時点では小さいと考えております。

通期業績への影響は引き続き精査いたしますが、現時点では下期に資材・原材料上昇によりコストアップの影響が見込まれます。また、年央に発売を予定しておりました新カラー剤でありますプレトワについては、販売時期を延期することを決定いたしました。主要原材料の安定供給体制を確認

した上で、販売時期を慎重に判断する方針です。本製品は市場からの期待も高く、安定的にリピートオーダーに対応できない状況での投入は、ブランド価値の毀損に繋がる可能性があるかと判断いたしました。

本件につきましては、経営会議においても検討を重ね、既存製品の原材料を優先配分する案も含め、議論を重ねてまいりました。その結果、当社としては、すでに顧客基盤を有する業務用製品の安定供給を最優先することが、美容室および代理店の皆様の期待に繋がるものと判断し、このような結果といたしました。こうした判断は、美容室を重視する当社の基本姿勢に則ったものでございまして、これまで美容室および代理店からの高い支持を得てきた要因の一つだと認識しております。

プレトワにつきましては、2月の決算説明会の段階より、社内でも非常に期待値が高まっている状況でございます。テスト販売を経て、当社としてはプレトワの大型化に対する自信を深めている状況でございます。そうしたこともあり、実際にサロンメニューに乗ってから欠品するようなことがあっては、かえって美容室の皆様にご迷惑をおかけするという判断で、販売を一旦延期することいたしました。販売のタイミングにつきましては、決定次第、皆様に開示を通じてお知らせさせていただきたいと思っております。

トピックス②: ガバナンス体制の変更

**長期契約等を踏まえ会計監査人を変更。
また、経営と執行の分離強化を目的に委任型執行役員体制へ移行**

会計監査人の変更(株主総会決議により決定)

- ・ 会計監査人を仰星監査法人からEY新日本有限責任監査法人へ変更
- ・ 監査期間長期化(34年)およびグローバル監査体制強化のため
- ・ 2026年3月定時株主総会で決議

取締役任期を1年へ短縮、執行役員制度を委任型へ移行

- ・ 経営の監督機能と業務執行機能の分離を推進するため
- ・ あわせて、意思決定の迅速化及び業務執行の効率化を図るため
- ・ 取締役の任期については、2026年3月開催の定時株主総会の決議により変更済み
- ・ 執行役員制度については、2026年1月より変更を実施

次はガバナンス体制の変更です。長期契約等を踏まえまして会計監査人の変更、および経営と執行の分離強化を目的に、委任型執行役員体制への移行をしております。二つとも、ガバナンスの強化に繋がる項目と、われわれは考えております。

まず、会計監査人の変更でございます。これは、先日程行われました、2026年3月の定時株主総会で決議されております。会計監査人を仰星監査法人からEY新日本有限責任監査法人へ変更しております。

仰星監査法人様におかれましては、34年に渡り、当社の監査を支えていただいたということではございますが、やや長期化してきたこと、およびグローバル展開の拡大に伴いまして、グローバル監査体制の強化のため、今回変更いたしました。この場を借りまして、仰星監査法人の皆様へのこれまでのご支援に対して、大変感謝しております。ありがとうございました。

もうひとつは、委任型の執行役員制度への移行ということでございます。目的は、経営の監督強化と業務執行の機能の分離を図ることになります。併せて、意思決定の迅速化および業務執行の効率化を図ることを目的としております。

これにあわせまして、取締役の任期につきましても、2026年3月開催の定時株主総会の決議により、2年から1年に変更しております。この項目につきましても、機関投資家の皆様から、任期の短縮化という要請をかなり受けておりました。それも踏まえて、このような決議をしたところで。なお、執行役員制度につきましても、2026年1月より変更を実施しております。

2Q以降の見通し

中東情勢の影響は下期にかけ懸念されるものの、足元の業績が好調に推移していることや原価・販管費両面で適切に対応することを踏まえ、現時点では通期計画を据え置き

		2Q以降見通し
売上高	国内	<ul style="list-style-type: none"> ヘアケア用剤は引き続き堅調な需要を見込み、4月発売のオー ज्या新商品(ミラジェリイ)への期待も高い 染毛剤は、ヴィラロドラカラーなどのグレイカラーを中心とした回復。安定供給の目途が立ち次第、前評判の高い新ファッションカラー「プレトワ」の投入によるシェア回復を図る
	海外	<ul style="list-style-type: none"> 米国事業は、2Q以降は1Q比で増収率鈍化を見込むものの、引き続き計画を上回る成長を想定 EU事業は、先行投資段階であるが、引き続き、計画を上回る高い成長ペースを継続することを想定 韓国は営業活動強化による安定成長により高収益性の維持を想定 中国は市場環境は大きく変化しないが、引き続き回復傾向が継続することを想定
営業利益		<ul style="list-style-type: none"> 売上高の増収に伴う粗利益増加が期待できるが、「プレトワ」発売延期の影響や、資材・原材料価格上昇に伴うコスト増が見込まれる 中東情勢の業績への影響を引き続き見極めつつ、原価・販管費両面で適切に対応していく 不透明な要因は残るが、足元の業績が好調であることを踏まえ、現時点では通期計画を据え置く

第2クォーター以降の見通しです。第2クォーター以降の見通しとしては、国内ではヘアケア用剤は4月にオー ज्याの新製品ミラジェリイを発売しております。染毛剤については、引き続き好調なヴィラロドラカラーなどのグレイカラーの拡販を進めつつ、プレトワの投入に向けて準備を進めてまいります。

海外については、米国において好調な事業環境が継続すると見ております。EU は引き続き営業赤字ではあるものの、さらなる売上拡大を図ってまいります。韓国は安定成長フェーズにある中、営業活動を強化し、高い収益性を維持しながら利益成長を図ってまいります。中国については、市場環境の大きな改善は見込みにくいものの、ヘアケア用剤および染毛剤の伸長を図ってまいります。

営業利益につきましては、増収に伴う粗利益の増加が期待できますが、プレトワの発売延期、および下期に資材・原材料価格の上昇に伴うコスト増が見込まれます。中東情勢の業績への影響を引き続き見極めつつ、原価・販管費両面で適切にコストコントロール等に取り組んでまいりたいと考えております。

不透明な要因は残りますが、足元の業績が好調であることも踏まえ、現時点では通期計画を据え置きとさせていただきます。

2026年業績目標

(単位:百万円)	FY2025	FY2026 計画	増減額	増減率 (%)
売上高	52,863	54,800	1,936	3.7%
国内	39,206	39,880	673	1.7%
海外	13,657	14,920	1,262	9.2%
売上総利益	33,176	34,720	1,543	4.7%
売上総利益率	62.8%	63.4%	—	—
販管費	27,523	28,420	896	3.3%
営業利益	5,652	6,300	647	11.4%
営業利益率	10.7%	11.5%	—	—
経常利益	5,455	6,180	724	13.3%
親会社株主に帰属 する当期純利益	3,437	4,300	862	25.1%
ROE	7.0%	8.6%	—	—
ROIC	8.0%	8.7%	—	—

最後のページをご覧ください。2026年業績目標は変えておりません。なお、国内・海外等の内訳等につきましては、もう少し中東の情勢の影響が見えてきた第2クォーターの段階で、見直しの必要があれば見直しをさせていただきたいと考えています。

以上になります。ご清聴ありがとうございました。

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、株式会社JPX 総研（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。